

ヒアリング資料（井上座長代理）

○テ ー マ：「スポーツ博物館に期待する今後の資料収集・調査研究と博物館の在り方」

○本日の進行： 1 井上座長代理（東京国立博物館副館長）より説明（20分）
2 質疑応答（10分）

（メモ）

「スポーツ博物館に期待する今後の資料収集・調査研究と博物館の在り方」

■総論

- ・先進国の使命として、スポーツ庁は競技力の向上のみならず、スポーツに関する資料の保存・公開についても重要事項と捉えるべき。
- ・秩父宮記念スポーツ博物館は、我が国唯一のスポーツに関する総合博物館である。本博物館は、過去4回のオリンピックならびに数多くの国際競技大会等を開催している我が国において必須の施設であり、これを健全に運営するための充実した組織・体制が強く求められる。特に、その主軸となる複数の正規学芸員の配置は極めて重要。
- ・競技場に隣接して設置することによる相乗効果が望ましい。
- ・秩父宮記念スポーツ博物館のナショナルセンターとしての役割を果たし、関係諸機関とのネットワークを形成し、指導・助言を行う体制を構築することが必要。
- ・IOCが設置しているオリンピック・ミュージアム・ネットワークに、将来的に秩父宮記念スポーツ博物館も加盟し、国際的なネットワークも構築する方向で検討すべき。

1. 資料収集及び調査研究の重要性

- ・資料収集及び調査研究を行うためには、学芸員の配置は不可欠。少なくともスポーツ史、保存、アーカイブ、教育普及等を専門とする複数の正規学芸員が必要。

2. 常設展の充実の必要性

- ・我が国のスポーツ政策として望ましい展示の在り方を検討すべき。わかりやすく、楽しい展示を目指す。
- ・なお、特別展に関しては、必要に応じ（年に2回程度）、マスコミ、企業等の協力を得て、時宜にあったものを開催することが望ましい。

3. 保存・管理機能の重要性

- ・JOCが設置するオリンピック・ミュージアムが資料の保存・管理機能を有しない以上、秩父宮記念スポーツ博物館がその機能を有し、重要な資料の保存・修理を行うべき。将来的には、重要文化財への指定もあり得ることも考慮すべき。

4 東京国立博物館の取り組み

- ・組織・運営
- ・広報戦略
- ・非来館者調査

以上